Newsletter VOL.12

出会う→集う→育てる→実る

ラコルタ

吹田市立 市民公益活動センター

ラコルタのココに注目！本号は…

オープンから3年。“今まで”のあゆみから、“これから”の未来への発進に向けて、読み応え満載の【3周年記念、特集号！】➡➡➡➡➡

開設3周年記念特集号

1–2ページ

特集1 ラコルタのあ・ゆ・み
1095日分の出会いから実りへ

3–4ページ

特集2 市長が語る「市民力」
ラコルタ単独インタビュー

5–6ページ

ëNカレッジすいた 第一期生、修了！

特集3 講座を振り返ってみて‥ THE座談会

これからもずっと市民公益活動を応援します

1095日分の出会いから実りへ

ラコルタ(吹田市立市民公益活動センター)は
今年9月2日で開設から4年目を迎えます。

毎月開催のテーマカフェでは誰もが気軽に参加できます

社会課題の現状や解決に向けての実践を学びます

現場で学ぶ団体運営学習会

現状と課題解決、その取り組み

ラコルタは市民公益活動の促進・支援の拠点施設という役割から、業務を大きく2つに分類し、ボランティア活動や団体支援に向けたソフト面と、活動に役立つハード面の両方の充実を図ってきました。運営に先立ち、市民公益活動促進のバックボーンとなる、「NPO・ボランティアグループ実態調査」を行い、実態から見えてきた課題を5つに整理し、方策を立てることから着手しました。
(以下図参照)

また、同時に最重要と位置づけてきたのは相談事業です。団体の運営や立ち上げ、活動の展開方法だけでなく、ボランティアをやってみたいといった個人の思いや、社会貢献に取り組みたい企業など、多方面からの相談は開設以来1,100件(7月末現在)を超えました。スタッフは、相談者の気持ちに寄り添いながら、助言その他必要な支援を行いますが、ラコルタも利用者のニーズに沿った事業のヒントを得ることができました。

●ラコルタが取り組む５つの方策

現状	課題	重点的に取り組んだ事業
慢性的な資金不足と資金獲得	資金獲得への意欲の向上	1 「吹田市市民公益活動促進補助金」のPRと説明会の開催、申請書の書き方などの具体的な支援
市民公益活動の担い手不足	担い手の育成	2 ソーシャルな生き方について考える学び舎「eNカレッジすいた」の開校
社会課題・地域課題へのアプローチと理念の実現	様々な課題解決への実践に学ぶ	3 「子どもの貧困」「裁判員制度」「終活」など、社会課題について考えるフォーラムの開催
課題解決に結実した成果の見せ方	活動や団体運営の見せ方の創意工夫・情報発信力の向上	4 SNSの活用や効果的なチラシの作り方など、広報力を高める実践的な講座開催
他の組織や団体との交流・連携・協働	連携や協働の場面の創出	5 協働事例集の作成、「地縁」と「志縁」を結ぶワークショップやフォーラムの開催、市民協働学習センターなどの団体や組織との協働事業の開催

市民の期待を背負いながら2012年9月に開設したラコルタは、
市民公益活動の拠点として、たくさんの方に支えられて、
3周年となりました。
市民や市民公益活動団体が公共サービスの提供者となる
「新しい公共」の担い手づくりと、
「市民自治が育む自立のまちづくり」に向けて、
市民公益活動をどのように生かしていくのかを模索しながら、
市民と共に公共施設の新しい価値を創造し続けてきました。

オープン前の内覧会では総勢250名の方々にご来場いただきました

●ラコルタ開設までの経緯

- 2000nen 「吹田市市民活動と行政の協働促進研究会」発足 — 調査から市民公益活動の拠点や促進の必要性が浮き彫りに
- 2006nen 吹田市第３次総合計画 — 「市民自治が育む自立のまちづくり」に向けて拠点施設の必要性が明示される
- 2007nen 吹田市市民公益活動の促進に関する基本方針
- 2011nen 「吹田市立市民公益活動センター条例」が制定
- 2012nen ラコルタ 市民公益活動センターオープン — 指定管理者(NPO法人市民ネットすいた)による市民主体の運営に

今後の展望～協働と持続可能なまちづくり～

開設以降、ラコルタは様々な分野で活動する団体との交流を通して、現代社会や地域社会の課題を学び知ることができました。また、利用者のニーズに対応した質の高い支援やサービスも心がけてきました。ただ、課題解決は、一朝一夕でかなうものではなく、また個々の団体・組織の取り組みでは限界があります。自治会をはじめとする地域諸団体、NPO・ボランティアグループ、企業・商店などの事業者、教育機関、行政などがお互いの強みを活かして、緩やかに、あるいは時限的に協働※1・連携することができれば、吹田市は「いきいきとした市民生活を将来に引き継ぐための持続可能なまち」(吹田市第3次総合計画策定の趣旨より)になると思います。そのハブ※2の役割を、今後ともラコルタが担っていければと思っています。

※1 協働…複数の主体が、共通の社会的な目的を果たすために、対等の立場で協力して共に働くこと。
※2 ハブ…ここでは市民公益活動を具体的に促進する機能を持つ拠点施設を意味する。

●連携のイメージ図

市長が語る「市民力」

後藤圭二市長 <吹田市片山町生まれの58歳>
昭和55年4月 吹田市役所入庁、吹田市職員として、市長室参事、環境政策推進監、環境政策室長、道路公園部長等を歴任
平成27年4月26日 吹田市長選挙にて初当選、
同年5月14日 第20代吹田市長に就任
趣味はスキー、テニス、野球、ダイビングなど

新しく就任した後藤市長は、対話と傾聴を基本とした民主的な市政運営により、「清新な市政で輝く未来」の実現に取り組もうとしています。ラコルタでは「地方自治の担い手」「行政とのパートナーシップ」「市民公益活動の促進」の観点を踏まえ、市長の抱負や考えについてインタビューを行いました。

まちとしての総合力を高め、成熟社会を目指す

Q. 市長の抱負は？

A. 選挙中に言っていた9つの重点課題の中で、強く危機感を感じているのが「静かな有事」といえる2025年問題です。団塊の世代が後期高齢期を迎える2025年からの超高齢化社会に、全国の自治体がどのように対応するのか、その方針、施策によって大きく住みやすさや生きやすさが変わってくると思います。経済的な余裕を自治体がどれだけ持っているかが基本ですが、それはあくまでもお金だけの話であって、どの自治体もお金だけで解決しようとすると、足りなくなるのは目に見えています。

実は、800を超える自治体を対象に「住みよさランキング2015」（東洋経済調べ）という調査があり、「富裕度」ランキングで30位以内に入っているのは、関西では、芦屋市（12位）と吹田市（27位）だけです。吹田市は税収が豊かな市であることは間違いありません。産業振興による税収も大きいですが、吹田市のまちとしての特徴は、豊かな市街地、住宅都市であり、そこに住んでおられる方の「市民力」であると思っています。税収だけでない、潜在的な「市民力」を地域で発揮して、まちとしての総合力を高め、成熟社会をめざしましょう、というのが抱負の1つです。

キーワードは「支える人を支える」

Q. 成熟社会における市民公益活動の役割や今後の展開についての考えは？

A. 具体的には、2025年問題にむけての福祉政策の再構築です。ただし今、直面している福祉の再構築は決して甘いものではありません。今までは、行政は様々な住民サービスを直接提供していました。お金があれば施設を建てよう、人を雇おうとしてきたけれど、税収の減少が予想され、そういった時代じゃなくなった。今後は、さらに高齢者も増え、地域生活を望む障がい者も増えていくでしょう。そこで、福祉政策をこれからの時代に合わせてどう転換していくのか、です。
一方で地域では、住民の生活を支えるいろんな芽が出てきています。思いをもった小さな活動が市民の手で始まっていますが、子育て支援などの基準が厳しいんですよね、子ども1人あたり何平米必要とか。事業として、あと一歩のところまできても、今まではダメなものはダメということで行政は支援せずにきたと思います。
私は、職員であったころから「法にかない」「理にかない」「情にかない」という3つのフィルターで仕事してきたんですけど、そこに情があるかという問いかけが必要と考えています。つまり、「支える人を支える」をキーワードに、支えている人たちを下から支えるのが、成熟社会の1つの解決策なんじゃないかなと思っています。
活動が芽生え、継続し、発展していくためには、市民公益活動の中心を担う中間支援の存在も不可欠です。家賃補助とか広報のお手伝いをしてあげるとか、思いをもっている方同士をおつなぎするとか、そこにこそ市民公益活動の本質があると思っています。私の市民公益活動のイメージの中心は、「人を支える」「命を守る」ことです。ここにこそ力が集中され、そのまわりに色んな活動段階がある、それが大きな意味での市民公益活動だと思っています。「みんなが生き生きしている」ことだけでは、追い風がやんだら終わると思います。

INTERVIEW 市民公益活動の“本質”とは

インタビュアー：ラコルタ／柳瀬、市民ネットすいた／鍵谷、写真：ラコルタ／春貴

成熟社会に向けた市民公益活動の役割

Q. ラコルタでは、開設した3年前にNPO・ボランティアグループの実態調査をしましたが、担い手不足の問題は自治会など地域の諸団体も含めて深刻です。そのことから、地域人材の育成に向けた「eNカレッジすいた」を始めました。行政が考える担い手不足への方策は？

A. NPOの最大の問題は人のリクルートが少ないところと思っています。団塊の世代を中心にNPOがたくさんつくられましたが、高齢化しています。例えば、シニア環境大学は環境に関心のある市民を募集して、活動を紹介して自動的に入れるシステムです。次の段階に進むときに、「ラコルタではこんなことしてますよ」と、出口、働く場、生きがいのある場を紹介するのが行政の使命だと思います。
また、みんながみんな市民公益活動をする必要はないと思うんですよ。できない人もいる、だけど、活動していない人たちも市民公益活動によって支えられることもある。その支える側と、支えられる側の中間層を、どう市民公益活動に引き込むかだと思います。市民公益活動があるからこそ、成熟社会が進むという説明ができないといけません。

地域で暮らす作法とは？

Q. 防災も挨拶からという考え方もあります。隣近所の繋がりは自分にもかえってくる話ですね。これからの地域コミュニティの在り方について聞かせてください。

A. 50代後半になってきたら、地域で暮らすことへの危機感を持ち始めると思うので、その滑走路として、地域で暮らす作法とかが分かればいいですね、絶対ニーズはあると思います。昔は冠婚葬祭とか地区の運動会を通して自然な住民同士のコミュニケーションがありました。「昔は自然にやっていたんだから」でなく、地域で暮らす作法を学ぶ必要性を、ちゃんと我々は認めないといけないのでしょうね。また、吹田市は医療機関や大学が多いことも特徴で、関係者が多く住んでいます。これら専門家も含めた住民が、自分たちのできること、してきたことで、地域コミュニティづくりに貢献していただくこともできるでしょう。

もう1つのキーワードは楽しいかどうかです。繋がりを維持することに労力をかけすぎて、楽しさをなくしてるんじゃないかと。住民同士やメンバー同士がコミュニケーションをとおして、「何してくれるねん」から「何をしたらいいねん」というふうに変わっていく。そのような人の変化が、成熟社会をめざすうえで大切になってくると思います。

市長にお会いしてきました！

我々の訪問を笑顔で迎えてくださり、その親しみやすさに、一気に緊張もほぐれました。「明確なビジョンが人を動かす」の言葉を体現されている方だと改めて思いました。会話の切り替えしも早く、あっという間の1時間でした。ラコルタは市民と行政がつながる場なので、またお越しくださいね。

センター長 / 柳瀬

ëNカレッジすいた

＜第一期生＞THE座談会

今年5月にスタートした連続講座「eNカレッジすいた（以下、eNカレ）」は、“吹田ではじめるソーシャルな生き方”を合言葉に、20代～60代まで、25名の受講生が集まりました。座学だけではなく、参加型のプログラムを多く取り入れ、地域や社会との繋がりを意識しながら、自分たちの生き方について考える学び舎となりました。

ひとことプロフィール

総務関係の仕事をしており、4月に定年退職を迎えたばかりです。健康第一ですね。

馬場 哲雄さん

保険関係の仕事をしています。休日は子どもと一緒に剣道で汗を流しています。

松藤 康治さん

家事を通して子どもたちの自立を応援する講座を開催しています。

遠藤律子さん

これからも日本舞踊を通して子ども達に浴衣着付け・礼儀等を伝えたいです。

澤田淳子さん

参加者が喜ぶイベントや講座の企画・運営の仕事をしています。（趣味は演劇と麻雀です）

細谷紀子さん

みなさんお疲れ様でした。第一期生ということで、何がはじまるのか不安と期待をもって受講していただいたかと思います。まずは、eNカレを受講しようと思ったキッカケについて教えてください。

馬場： チラシに書かれていたキャッチコピーを見て、自分に当てはまることばかりだなぁと共感しました。定年退職を迎えたばかりなんですが、退職後のことは、漠然としたことしか考えていませんでした。ただ、退職しても「今日行くところがある」というのが必要だと思い、何か始めるキッカケになればと思い応募しました。

▲第一期生募集のチラシ

松藤： 自分も定年後のことを考えると、今から何かしたいと思っていました。ただ、最初の一歩を踏み出せずにいたので、そのキッカケになればなと思いました。“ソーシャル”の意味もよくわからなかったんですが（笑）。

遠藤： 小学校・中学校とPTA活動に携わってきたのですが、子どもが高校に入ると、地域で活動する機会が減ってしまいました。もっと地域でお役に立てることがないかと思っていた時に市報すいたを見てピンときました。

澤田： 私は転勤族なので、地域の事を知る為にＰＴＡ・自治会等に参加してきました。ですが個人で何か活動したいと思ったときに、肩書きや誰かの繋がりがないと地域で活動をするのは難しいなぁと悩んでいたところでした。

細谷： 以前からラコルタを知っていて、いつも面白い講座をしているなと思っていました。今回の講座受講を決めたのは、今後取り組んでいきたい「次世代を育成する活動」をカタチにするヒントをつかみたいと考えたからです。

すでに何かしており、活動を広げたいという方もいれば、これからはじめたいと思って受講された方もいたということですね。eNカレは全6回、3ヶ月という短い期間でしたが、実際に受講されてみて、いかがでしたか?

澤田： 色んな市民公益活動が吹田の中にあることを知ることができ、そこに関わる人と出会えたのが良かったです。eNカレの一期生として自分の活動に活かしていきたいと思っています。

【ëNカレッジすいた とは】 「何か活動をしてみたい」「人とつながりたい」「地域や社会の役に立ちたい」といった一人一人の思いをカタチに変え、ソーシャルな生き方について考える学び舎です。

馬場： 一番最初の講座で、「ボランティアを生きがいにしない」「やめても良い」という話を聞き、負担にならず最後まで受講できました。ラコルタのスタッフにも気軽に相談することができて良かったです。

細谷： 面白い企画だと、受講者も面白い人たちが集まるんじゃないかなと思っていて、実際にそうだったと思います（笑）。同世代の人とは普段の生活で繋がることはできるけど、eNカレで多世代の人たちと繋がることができました。

遠藤： 自分が講師としてワークショップをすることもあるので、参加型の講座はすごく参考になりました。講師の方はもちろんですが、ラコルタのスタッフもファシリテーションのスキルが高くて感心しました。

松藤： 仕事以外の話題で喋る機会が少ないので最初は不安でしたが、意外と喋れるものなんだなと気づきました。また、仕事は結果を求められますが、ボランティア活動は結果ではなくて、話し合いを積み重ねるプロセスが大事だと知り、新鮮でした。

座談会を終えて…

ボランティアや市民公益活動というと、何か特別なことであったり、ハードルの高いものというイメージがつきものですが、eNカレでは、自分たちの生活の延長線上にある身近なものとして受け止めてもらえたのかなと思っています。
また、受講したキッカケは人それぞれですが、自分自身のことや、社会のことなど、日頃感じているモヤモヤを分かち合える関係づくりが、eNカレの中で生まれていたように感じます。
「何か活動をしてみたい」「人とつながりたい」「地域や社会の役に立ちたい」、そういった思いを形にしていくことを目標としていましたが、まずは誰かとその思いを共有するところからはじめるのが、eNカレの良さなのかもしれません。
第二期生では、どんな人たちと出会えるのか楽しみです。

（インタビュアー：ラコルタ / 春貴）

予告！ 第二期 2016年1月開講予定!

■内容：コミュニケーション力講座、ボランティア活動体験など
■参加費：無料 ■対象：どなたでも ■定員：20名（多数の場合抽選）
※詳しくはラコルタへお問い合わせください。

Newsletter Vol.12
※年4回発行（3月・6月・9月・12月）
2015年9月1日発行：ラコルタ｜吹田市立市民公益活動センター　〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号　千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851　info@suita-koueki.org　http://suita-koueki.org
指定管理者　NPO法人　市民ネットすいた

講座・イベント情報

どなたでもお気軽にご参加ください。

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXかメールでラコルタまで。
電話：06-6155-3167　FAX：06-6833-9851　メール：info@suita-koueki.org

9月12日（土）知らないと損する広報の基礎

単なる情報発信から一歩先の広報活動へステップアップしよう。

●とき：13:30～15:30　●定員：先着20名
●対象：市民公益活動団体の運営・広報担当の方

11月13日（金）市民公益活動団体のための会計相談日

ご相談ください!! 税理士がお答えします。

●とき：10:00～12:00（1団体あたり最長1時間まで）
●定員：先着2団体まで
●対象：市民公益活動団体役員、会計担当者

11月19日（木）NPO法人入門講座

NPO法人制度や申請の方法について解説します。

●とき：13:30～15:00　●定員：先着10名
●対象：NPO法人化を検討している団体

テーマカフェ

毎月テーマが決まっています。
皆さんと一緒にお話ししましょう!
どなたでも気軽にご参加いただけます!

9月15日（火）自分を活かす社会貢献

特技や資格を活かしたボランティア活動について語り合います。

●とき：14:00～16:00　●定員：先着15名

10月23日（金）生きることにつなげるゲートキーパー

死にたい気持ちを持っている人に向けて自分ができることを考えます。

●とき：19:00～21:00　●定員：先着10名

毎月開催

自分にあったボランティア活動を見つけませんか？
『市民公益活動入門講座』　各定員10名

●9月13日（日）昼 13:30～15:00
●10月20日（火）夜 19:00～20:30
●11月18日（水）朝 10:30～12:00

第8回 私たちの団体・私たちの活動

市民公益活動団体インタビュー

NPO法人ここ

ここ飯（晩御飯を皆で作って食べる）の風景

Q 設立の経緯は？

A 2008年4月、10代後半から20代の若いスタッフを中心に、不登校やひきこもりの子どもたちをサポートする団体『ここ』を設立しました。子どもたちが安心して、自分の足で歩みだす準備ができる、そんな居場所をつくることを目的としています。

Q 活動内容は？

A 居場所では自分たちで作る『ここ飯』が魅力のひとつ。「みんなで食べると美味しいよ！」が合言葉です。そして、学校以外の学びの場としてフリースクールやドラムやエレキギターを学べるミュージックスクール、スタディサポートなどを行っています。これまでに35人が巣立っていきました。

Q 今後の展望は？

A 7年目を迎えた今年は、学習支援スタディサポートをパワーアップしました。当初は6人だったスタッフに『ここ』の卒業生も加わり15人の体制で学習をサポートします。一緒に「出来た！」を重ねて、子どもたちの『こころ』を育む場所にしていきたいと考えています。

＜NPO法人ここへのお問い合わせ・連絡先＞　〒564-0038 大阪府吹田市南清和園町3-26
電話：06-6382-5514　メール：chs_koko5514@yahoo.co.jp

ぷちボラ

働きざかりの方や家事・勉学に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる（ぷち）ボランティア活動」のプログラムを提供します。

ラコルタサポーター

ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとしてお手伝いいただきます。

詳しくはWebで⇒⇒

編集後記

吹田市民に役立つ公設民営の施設として開設以来早や3年。広く市民や利用者の声を聴き、毎月、行政との打合せ、市内外の様々な団体との交流、職員研修などを通じて研鑽に励んでいます。未来にさらに輝く吹田のステップアップに向けて…。　（佐藤）

＜発行責任者＞柳瀬真佐子　＜編集スタッフ＞茨木由美・伊富貴順一・鍵谷誠一・佐藤和男・中井まり・春貴勇力（五十音順）

「ラコルタ」吹田市立市民公益活動センターへのアクセス　阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階